

昔話と未来の話

ささだこういち

Kansai RubyKaigi 08 After Party: Ei-den LT

自己紹介

- 関西Ruby会議08に本気の応募をしたけど落ちた
 - RubyKaigi 2025 概要: 997文字, 詳細: 182文字 (英語)
 - 関西Ruby会議08 概要: 221文字, 詳細: 975文字 (日本語)
タイトル: Rubyとつくるコンパイラ

自己紹介

- RubyKaigi
実行委員長代理

自己紹介

- ~~RubyKaigi~~日本 Ruby カンファレンス 2006
実行委員長代理
- 日本 Ruby 会議 2007~2011
プログラム委員長

2025-06-17

沢田マンションツアー as RubyKaigi 2025 Day 4 & 5 ——「無名の質」に会いに行く

RubyKaigi イベント・協賛

<https://tech.smarthr.jp/entry/2025/06/17/120244>

昔話

当時すでにアメリカではRubyConfが開催されていて、なぜ日本ではRubyのカンファレンスが開かれていないのかと思っていた私は、これは素晴らしいと思いました。同時に、あと数ヶ月後に開催が控えているのに、ほとんど何も決まっていなかったことに驚いた記憶があります。そもそもどんな方向性にするのかといったこともあまり決まっておらず、さすがにそれはまずいんじゃないかと思いました。ささださんには「江渡さんに怒られた」とどこかで書かれていましたが、怒った記憶はないが、正直な意見を述べた記憶があります。その後で、いくつか方向性を提案しました。

このようにして、Rubyと言えばすぐに出てくる名前の人が第1回カンファレンスで名をつらねているのを見て、そのような場だったら自分も発表したいと思う人が第2回以降は現れるはずなので、第2回以降は公募形式で発表を募集する。このような流れを考えました。

この想定はかなりうまくいき、第1回の発表者は見返してもらおうとわかりますが、鏘々たるRuby関係者が集まる会議となりました。

基調講演には、Railsの作者として知られるDHH ([@dhh](#)) をお呼びしました。部分的に国際色あるが、どちらかというと日本語主体の会議という立て付けになっていました。

問

なぜRubyKaigiはこれほどまでに質の高い空間を継続できているのか、そしてその継続には何が必要だったのか、いま一度きちんと問い直すタイミングが来ているのではないかと感じています。

問 RubyKaigi のよさとは何か？

わかれば、再現性があるかも？

仮説：企画が良かった

仮説：プログラムが良かった

- プログラム委員長がよかったかな～

仮説：Ruby が良かった

仮説：バンドワゴン効果

- バンドワゴン効果（バンドワゴンこうか、英: bandwagon effect）とは、ある選択肢を多数が選択している現象が、その選択肢を選択する者を更に増大させる効果。「バンドワゴン」とは行列先頭に居る楽隊車[注釈 1]であり、「バンドワゴンに乗る」とは時流に乗る・多勢に与する・勝ち馬に乗るという意味である[1][2]。経済学・政治学・社会学などで使われる。対義表現は「アンダードッグ効果」[注釈 2]。

仮説：人がよかった

- MINASWAN

未来の話



IRPC 2024
International Ruby Programming Contest

つくりたい! が **世界** を変えていく!

14th
中高生

国際

Ruby
プログラミングコンテスト2024

in Mitaka

つくりたい!が**世界**を変えていく!

15th Ruby

中高生
プログラミングコンテスト2025

